

令和8年度 宮の森小学校「学ぶ力」育成プログラム

学校番号：21015

自ら課題を見付け、自ら学び、自ら問題を解決する資質・能力

「学ぶ力」	
実態	成果
◇「学校で好きな授業がある」「授業中、先生や友達の考えを最後まで聞いている子ども」は、以前として高い傾向にある。学習課題設定の手だての成果が表れている。また、個別最適な学びと協働的な学びのよさを実感させる授業改善の効果が持続している。学年研修等でも、各教科の教材化・単元構成を共有していることやノート指導による学習習慣・学習内容の定着を図った効果が表れている。	◇「普段から、計画を立てて勉強している」「今の自分にとって、どのように勉強するのがよいか分かっている。」は、例年6割程度の割合が続いている。主体的な学びを持続させる授業改善、学校として授業と家庭学習（自主学習のススメ・自主学習のレシピ）との繋がりを保護者・児童と共有していく必要がある。 ◇学年学級での話し合いによる「納得解」を見いだす経験は不足していると感じる。児童会活動（委員会・クラブ等）や係活動で意図的に話し合い活動をしていく必要がある。
「学ぶ力」の基盤〈協働を通して磨く 相互承認の態度〉の現状と課題	
◇「なかよしタイム」（異学年交流）や「ぽかぽかの木」（他学年のよいところの交流）などの活動を通し、連帯意識や認め合いを育むことができていると感じている児童は、9割を超えている。活動に対し、児童が意味を見いだして取り組むことができている結果だと考える。一方で、「自分にはよいところがある」と捉えている児童はそれに比べてやや低い傾向が続いている。今年度は、他者を認める活動に加え、自分のよさを実感できる取組（行事での他学年からの声が見える化する取組）をしていく。	
「学ぶ力」の育成のために着目する資質・能力	
主体的に学ぶ子どもの育成～つなげ、つながるよさを実感できる授業～	
取組	課題探究的な学習の推進 に向けて
	（1）研究主題（副主題）に基づき、<u>教職員が互いの授業を見合う時間と場を確保する。</u> （2）視点1「タテ（既習や見方・考え方）のつながりが見える教材化・単元構成」 ⇒実現の手だて…<u>解決方法の選択・課題設定の選択（単元）</u> （3）視点2「ヨコ（本時に獲得する概念）のつながりが見える手だて」 ⇒実現の手だて…<u>新たな概念を視覚化・比較・検討・吟味等の場をつくる（個別・協働）</u>
	自治的な活動の充実 に向けて
	①学校重点目標「ともに」に基づき、同学年・異学年の活動を見たくなる手だてを講じる。 ②よりよい学級（学年）にするための学級活動の充実 ⇒実現の手だて…<u>さっぽろっ子サミットと連携し、児童が主体となり、自分たちで委員会・クラブ・学級内等の課題解決に向かえるような仕組みづくり</u> ③よりよい学級（学年）にするための振り返り活動の充実 ⇒実現の手だて…<u>当番活動と係活動の充実・学期ごとのキャリアパスポート等を他者と見合う活動の定着</u>
「学ぶ力」の育成の一層の充実を図る ICT の活用について	
◇課題探究的な学習では、主に（2）（3）について、複数のツール（学びポケット・オクリンプラス等）の中から適当なものを、児童が自ら選択できるような環境を整備するとともに、各ツールの利点などの特色について、発達段階に応じた指導を図る。 ◇自治的な活動では、主に①について、書記局と向陵中とのオンラインミーティングの機会を作り、子ども同士の声（取組等）をつなげられるようにする。	

<本プログラムの実行に向けて>

新年度 ◇本プログラムの共有 ・職員会議（5月15日） ・すぐる・HP 周知（5月中旬） ・パートナー校間研修	【一人一人の教職員】 ◇授業改善の継続 ・日常授業 ・学年研修 ・札教研・年次研修	【学校全体】 ◇全校研に向けて ・提案授業（5月） ・全校研、部内研（9月～12月） ・研修（12月～2月）	次年度 ◇本プログラムの検証 ・後期学校評価全体会（2月12日） ・研究全体会（2月下旬～3月上旬） ・実践研究会に向けて（R9年度）
---	---	--	---

